

1. 自己紹介

●菅原：下新倉在住

●萩原：新倉在住

○新倉在住。予算を増やすには財源が必要で、居住者を増やしていく必要があるのではないかと。ワンルームでは、実際に住民票をおいているのかどうかの懸念がある。

ワンルームマンションの急増に伴う若年層の増加と住民票の未登録問題ということはどうか市でわかるのか。これは市の税収確保や居住実態の把握という点での課題があるのではないかと。ファミリーが入って来づらいことに不安を感じる。

○川越市在住で、両親を在宅介護で看取り、年4回、川越に限らず、国会に行ったり協議会に行ったり、地方議会を傍聴したりしている。SNSで議員さんに繋がったりしながら、埼玉、日本の未来のために、自分たちが今できることを念頭に置きながら、和光市で議会報告会が行われている事を知り、今日参加した。年2回行われていることは素晴らしい。和光市の長所を学び、自身の地域に活かしたいと考えている。

●内山：下新倉在住。元々自衛隊勤務していた。現在は防災士として、県内で防災啓発活動しながら、和光市の地域防災をしっかりと育てていこうと活動している。

●伊藤：南在住。先ほどのワンルームマンション310世帯建設の件、小さな和光市にワンルームマンションが多い課題について関心がある。昨年度より条例改正され、改善が期待されるとおもうが、該当のマンションには間に合わなかった。今後も見ていきたい。

○本町在住。今日のようにグループ分けすると、全体の意見が聞けないが、なぜこのようにしたかわからない。私自身、市の議会傍聴や地域の祭り・行事への参加を通じて市政に関わっている。市民の意見を市政に反映するメカニズムを考えたい。政治塾を作りたいと思っている。今日もワクワクしている。問題定点について伺いたい。

○板橋区成増在住で、都議選に出馬。和光市で過ごすことが多い。隣接する板橋区から見ても和光市は魅力的であり、和光市から学べることを学びたいと思って、参加した。

●前は少人数だったので1グループで行ったが、今回は人数が多いので、発言が十分できるよう、関心のあるテーマごとにグループ分けをした。

2. ワンルームマンションの増加と住民票・税収の問題

○単身者向け住居増加が市の税収やコミュニティに与える影響はどうか。住民票を移している世帯は何割かわかるのか？市の担当者は個人情報保護を理由に詳細な調査は難しいのではと思うが、今後居住実態が把握できるのか確認をしたい。

●個人情報という面もあると考えるが、行政として居住実態が把握できるのか今一度持ち帰りしたい。

○ワンルームマンションの建設とファミリー向け住宅の確保ということについて、開発に当たった条例による「努力義務」では実効性が低いと思う。どんな人が住んでいるかわから

ない状況は、近隣住民として不安である。「義務化」も必要ではないか。

3. 市民参加・議会報告会・地域コミュニティ・和光市の魅力と長所の活用

○生まれ育った川越市は、川越の愛郷心が強い地域コミュニティを紹介。川越大好きな人が多くいる一方、外国人が増えている。財政的に厳しい状況はどこも同じと思うが、課題ばかり突いても楽しくないので、いいところを伸ばすことが必要。和光市民がどこを気に入っているのかを、聞きに来た。川越に持ち帰りたい。

○地域の祭りや行事があり、地域の要望へのかかわりを受け入れられる街である。餅つき大会など、小さなところにも、自ら参加していくと、良さが分かる。

●和光市は大きなまつりは無いが、自治会の祭りなど、小さな祭りが多い。

●前職の際に東日本大震災対応時に夫婦共に自衛官だったので、家を空けることとなったが、近隣の方が子どもたちの面倒を見てくれたことで、地域との繋がりの大切さ、和光市の温かさを感じ、役員などを引き受け、現在に至る。よそから来た人を温かく受け入れる街である。

4. 市内の南北での再開発

●17年間和光市に在住。交通の便の良さを評価しつつ、都県境における住環境や行政支援の違いに疑問点を持っている。交通の便の良さで移り住む人が多い一方、市内には南北格差が存在する。南側は公共施設が充実しているが、スピーカーが住む北側は商業施設が不足していると感じている。近年、北側で区画整理や駅前再開発が進んでおり、今後の発展に期待が寄せられている。

5. 近隣自治体との比較・住環境（子育て支援・家賃）の評価

○近隣自治体との比較（子育て支援・家賃）：東京都板橋区の方が子育て支援が手厚いと感じる人がいる一方で、家賃などのトータルコストを考慮して和光市を選ぶ人もおり、居住地の選択が分かれている。住民票が移されなければ税金が増えず、行政サービスを充実させられないジレンマがある。

○治安について、安全なまちづくりを進めていてもらいたい。

○地域の魅力と可能性：交通の便の良さ、都心へのアクセス、緑の豊かさは和光市の大きな魅力として認識されている。課題解決だけでなく、これらの長所を伸ばしていく視点が重要である。

●和光市の魅力（交通の便、緑の多さ）を評価し、課題だけでなく良い点を伸ばす発想の重要性を強調。ファミリー層向けの街づくりが十分に活かされていない可能性を指摘した。

6. 住環境・道路問題

●市内の南北格差や狭い道路問題を認めつつ、北側駅前の再開発や区画整理が進んでいることを説明。

●東武東上線を境に、公共施設が充実する南側と開発が遅れている北側との格差が顕著であ

る。北側では駅前の再開発や区画整理が進行中だが、狭い道路が多く、道路の拡幅には土地所有者の協力が不可欠である。

●和光市は道が狭いことが大きな問題で、災害時の安全確保の観点からも課題となっている。道路拡幅は土地所有者の協力により拡幅に取り組んでいる。

●和光市では、立地適正化計画を策定して、道路や住宅の配置といった点を盛り込んでいる。

○住環境は大事だと思う。住みやすさに関し、市民の声は、和光市に届いているのか？

7. 道路問題とまちづくり

○和光市は道が狭いことは議会にも届いており、災害時の安全確保の観点からも課題となっている。道路拡幅は土地所有者の協力が得られにくく難航しており、部分的な整備にとどまっている。市のアンケートでも交通の便の良さと並行して、道路の狭さや災害への不安が課題として挙がっていると思う。

8. 市民参加と議会報告会への評価

○和光市の議会報告会のような、議員と市民が直接対話する機会は、市民の市政への理解と関心を深める上で非常に有効であると評価されている。多様な市民が主体的に地域に関わることが、より良いまちづくりに不可欠である。この取り組みが他自治体にも広がることを期待した。

○議員は多様な市民の声を拾い、具体的にフィードバックする役割を担うべきだ。

○近隣自治体の参加者として、和光市の議会報告会が党派を超えて議員と市民が直接対話する「市民のための会」として高く評価する。市民が市政に関心を持ち参加することが重要であり、素晴らしいと思う。